

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 7 月 25 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104138		
法人名	医療法人社団博寿会		
事業所名	グループホーム博寿会ほほえみ		
所在地	〒739-1734 広島市安佐北区口田1丁目14-10 (電話) 082-843-1011		
自己評価作成日	平成23年7月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	<a href="http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470104138&amp;SCD=320">http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470104138&amp;SCD=320</a>
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年8月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>安佐北区高陽地区の認知症ケアの拠点として、入居者さんとともに歩むホームを目指しています。また、地域への認知症の理解を深める活動も行なっております。地域との連携は非常に重要と考えています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>JR矢口駅より徒歩1分と近く、敷地内に十分な駐車場も確保されていて面会時等における交通の便は良い。この事業所の運営母体が医療法人で、終末期の対応を含め、看護・医療面で利用者・家族にとって安心であり、ついの住処となり得る。今、一階を2ユニット目のグループホームとして改修中であり、完成の暁には施設にスプリンクラーも完備する計画である。他の事業所と比較して、この事業所の特筆すべき点として、事故や苦情・ヒヤリハット等が包み隠さず、ありのままに関係者に公表され、意見・助言を求め、再発防止に活かそうとする真摯な姿勢で臨んでいる点である。又「地域のお役に立てる事業所でありたい」「出来なくて良い。ありのままの貴方で良い。今まで暮らしてきた生活を支えてあげたい。」の運営責任者の強い思いで『利用者本位の運営』が行われている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフは地域密着と言う意味を理解し、事業所も出来るだけ高陽地区の方が入居できるような体制を整えています。	法人としての理念は事務所に掲げられている。昨年、事業所独自の理念を作成しようとスタッフ全員に呼びかけ「介護における大切な事はなにか」を各々に提出してもらい、それを集約・分析し絞り込みに取りかかった。その矢先、水害にあい作業が中断状態となっているのは残念である。	スタッフ皆で知恵を出し合い、話し合いを重ねる過程にも「介護とは何か」を深く考える意義がある。ましてや皆で作る理念は全員の共通のものとして共有され、意識統一も計れる。一時中断している作業が再開され、独自の理念が完成することを望みます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年の水害後、地域住民への説明会に参加したり、催しなどに参加したりと地域の一員として交流を深めています。同じ地域に住むものとしての防災意識の共有は重要な点とも考えています。	町内会に加盟しており、お祭りの時期には子供みこしも立ち寄る。又、地域の小学校児童やボランティア（フラダンス等）の訪問もあり、地域との交流は続けられている。特に、地区各方面に呼びかけ、運営推進会議に多くの地区代表者の参加が実現したことは、地域との関係強化につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者の行なう認知症サポーター養成講座などを行ない、地域社会へ理解を求めています。近々では、平成23年7月末に口田地区での講座を予定しております。現在高陽町でもこの地区からの入居さんは3人おられます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回の定期的な開催はもとより、その中でも、防災訓練や司法書士による人権擁護の講義などをおこなっています。	地域の各方面に運営推進会議への参加を精力的に呼びかけ、町内会長や消防署員等、多くの参加者が実現し活発に開催されている。特に会議の場でヒヤリハットや事故、更には苦情にいたるまで内容が詳細に報告され、参加者の意見・助言を仰いでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	安佐北区の担当者とは日頃より連絡を取り合っています。	運営推進委員会にはほぼ毎回、区役所担当者の出席があり、定期的・継続的なコミュニケーションが保たれている。運営に関する質問や報告があるときも、日頃より事業所の状況を把握してもらっているため話の通りも早く、円滑な協力関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	退院後の混乱の対応としてこういった行為が予想されるケースがあり、家族にも同意を書面にていただいています。実際には行なう事はなく傾聴などの対応で終息していています。	利用者の安全確保の観点から徘徊マットセンサー等を使用せざるを得ない時は事前に家族の理解を取っている。身体拘束の是非については十分理解されている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な虐待防止研修へ参加し、スタッフへ指導しています。認知症高齢者が高齢者虐待の当事者になりやすい事も十分に理解しています。また、あざや傷などはスタッフ同士で報告しあっています。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	過去に入居者様の後見人に司法書士の方がおられ、運営推進会議において権利擁護における勉強会をスタッフ、家族へ行なった実績もあります。入居者の顔ぶれが変わったので、H23年度にも開催したいと考えています。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、及び解約の際には十分な説明をしています。その後、疑問点等あれば、適切に答えており、こういった要件に関してこれまで苦情はありません。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見抽出は難しいが生活の要望などではできる範囲で行なっている。アンケート箱なども準備しています。	介護計画の見直し時に加え、家族の訪問時に暮らしぶりの報告を兼ねて「なにかありますか？」と投げかけ、家族の意向・要望を聞くよう努められている。重要事項説明書には事業所と公的機関の相談・苦情受付窓口が明記されており、苦情等を正面からしかも真摯に受け止めようとする姿勢が伺える。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	入居者の介護量の増加などにより、業務内容変更の提案があり、反映しています。	スタッフは二人で一組のペアを組み、複数の入居者を受け持っている。ペアで介護の方向性を話し、それを担当者の意見・要望として管理者に随時あるいは定期（カンファレンス等）に報告している。ただ定期的にスタッフの意見を汲み上げる場が少ないのが残念である。	スタッフが思いや意見・要望を発言し、易い環境を整える必要があります。方針の徹底や全員の意識統一の為に『月一度の担当者会議』等が定期的開催される事を期待します。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	対応できる範囲において考慮しています。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得の励行などしています。また、年間計画として、虐待防止研修などの研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	母体が医療法人であり、医師会の勉強会等への研修参加の機会があり、管理者を含め職員は、個人的ではあるが他のグループホームの管理者、職員との交流はあります。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居初期においては非常にデリケートな時期ですのでいい関係を築けるように努力しています。ケアマネージャーによるアセスメント以外にも日常的に関係を築くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	十分な時間をかけ、話を聴くようにしています。特に期限が決まっていない待機の時期に家族の精神的なサポートは重要と考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居に関しては即日対応が困難である為、その家族の相談し、希望があれば、同一法人の通所系サービスなどで対応する事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	何でも「してあげる」介護ではなく、残存機能を見極め、出来る事は行なって頂く様に職員を指導しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族は「もう1人のスタッフ」として色々な協力をお願いしています。運営推進会議の参加率の上昇により、介護の理解を深めていただいたと思われま。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族等の支援により、信仰、行きつけの美容室、または四季折々の外出や、外泊などしていただいています。自宅があった場所のご近所さんが尋ねてこられる事もあり、入居者さんとの時間を持って頂いています。先日も行きつけのラーメン屋にて「元気だった？」と声をかけてもらっていました。	「むかし食べたうどんが食べたい」の利用者の要望で近くのスーパーへ店を探しに行った事がある。利用者の外出要望は様々な場面・形で表れるが、その要望を態度・様子等で読み取り、ストレスが溜まらないよう柔軟な支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い方同士でとなりの席にするなど配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された家族を見かけた場合には会話などすることはあります。亡くなられた方の家族がお見えになることもあります。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族を交えてのサービス担当者会議を定期的に開催し、本人の願い、家族の希望を確認しています。特に個別性を重視しています。	以前はややもすると職員都合で動いていた面もみられたが、現在は「まず、本人に聞く」「本人の意向・希望を確認し、職員都合を優先しない。利用者本位で動く」が周知徹底するよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人一人の生活歴はある程度把握しており、出来るだけ沿うようにと考えてはいます。しかし団体で行動する時間もあり、再現できている部分とそうでない部分が明確に分かれます。草むしりやマージャン、病院へ行くのが日課の方、出来る限りは行なっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的にあセスメントするようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメント～計画作成～モニタリング～見直し等でスタッフが関われる体制にしています。</p>	<p>担当者（2名でペア）と計画作成者の話し合いの下、基本プランを作成し、家族に目を通して頂き、意見・希望等を確認し、修正・調整をしている。必要に応じて主治医にも連絡を取り意見を求め、それぞれの関係者の意見が反映された介護計画が作成されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、特段の変化があれば、ケース記録や、個人ファイルへ記入しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>法人内のケアとの合同での企画などはその都度検討している。また、以前には本来であれば家族が行なう他院通院において精神症状の強い方の通院にスタッフが同行するといった配慮を実施した事もあります。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>現在本人の意向や必要性に応じての左記の資源の活用はありません。ボランティアに関しては、ケアとの合同でのレクリエーションの実績はあります。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>家族、本人がかかりつけ医を希望される場合は、そちらへの通院をお願いしているが、殆どの場合当医療機関での管理を希望されています。又場合によっては、基幹病院との連携をとる場合があります。（専門性の高い医療など）</p>	<p>運営母体が医療法人だけに、ほとんどのケースでそちらでの受診を希望されている。入居前からのかかりつけ医や専門性の高い医療機関を希望される時は基本として、家族対応となっているが、急性の高い時等は職員対応する事もあり、必要に応じた柔軟な支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の通院にて心身状況の把握や、緊急時の対応を協力してもらっている。体調の変化には迅速に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の様子などの報告を受けたり、十分な連絡は取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に差しかかった場合、ご本人、家族、主治医、スタッフとともにその後の対応等を検討するという旨の同意書を改めて頂戴し、家族にもいつかくるその日への心の準備をして頂いている。担当者会議を活用しています。	入居時の説明に加え、重度化に差し掛かった時、改めて家族に十分な状況説明と話し合いが行われている。運営母体の病院が同一敷地内にあることの安心感もあり、本人・家族の要望を最大限に取り入れたギリギリまでの終末期介護が実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	心マッサージなどの基本的知識は習得しています。急変時には医療連絡を最優先としています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防避難訓練を実施している。また母体の医療法人からの連携体制も取れている。また警備会社との連携もあります。	消防訓練は年2回実施し、火災発生時には警備会社や同一敷地内の病院へ警報が飛ぶようになっている。昨年の水害を経験し、町内の防災説明会に出席することで事業所の存在の認識度が高まり、今後、水門を閉める事態が発生したら、町内より事前連絡が入る手筈となっている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心、羞恥心に配慮した言葉かけを行なうようにしているが、「便」「おしっこ」などの言葉を入居者様の前で言うなど、まだまだ配慮の足りない言葉を使用している現状です。	自尊心・羞恥心を傷つける恐れのある時は、ストレートな表現を避け、極力、目配せ・身振り手振りによるコミュニケーションをするよう努めている。職員に配慮の足りない言葉遣いがあった時は、その都度、注意をし、全員に「配慮の必要性」が徹底するよう努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	様々な場面において、本人に選んでいただく様にしてもらっています。その際には分かりやすい言葉を使用しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体力面を考慮し、活動する時間、休む時間を個々に決めたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理美容は決められた日に実施しています。イベントなどで、お化粧をされたりする事もあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食、昼食は母体である医療法人の厨房に依頼しています。夕食は厨房より食材のみいただき、入居者様にはできる範囲で調理、盛り付けに参加していただいています。また、行事の際には、特別な料理も出ます。	利用者の好き嫌いは日頃より把握しており、嫌いなものは出さない、また楽しく食事が進むよう利用者同士の席の配置にも気配りされている。又、得手不得手・体力に応じてテーブル拭きや取り分け等、出来る事をやってもらっている。ひな祭り等の行事には特別料理を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養士による献立を採用している。水分補給においても定時に行なうようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを行なっている。以前は，それでも口臭に強い方には，個別にマウスウォッシュ（口臭除去）を使用していたこともあります。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の支援が必要な方には個別的にトイレ誘導等を行なっています。	利用者それぞれの排泄パターンを把握しており，必要に応じて個別にトイレ誘導が行われており，適切な排泄支援が実施されている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	現在排便不安定な方もおられ，個別的に検討中。できるだけ食品や水分による排便を促したいという方針には職員は一致している状況です。しかし，極度の便秘の方は，下剤を使用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	乾燥肌の方，または，排泄の失敗の頻度により，週単位で入浴回数を調整しています。入居者の希望を聞くこととしては「これから入浴はいかがですか」といった問いかけをし，本人にどうするかを決めてもらっています。	概ね，週3回程度，入浴をしてもらっている。個別的に入浴時間や順番は決めてなく，本人に入浴の意思・希望を確認している。湯の色を楽しみにしている利用者もあることから3～4種類のバスクリーンを備えたり，個々に応じた入浴の支援がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	入居者の様子を見ながら、適時 休んでもらったりしています。ま た、1人で眠れない方もおられ る為しばらく一緒にいるといた った支援もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬の数も多く、全ての職員が薬 の効能等の全てを把握できてい ないが、個別にまとめたファイル があり、その中を確認したら把 握出来るようになっていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	役割としては主婦であった方た ちには家事を手伝ってもらって いたり、楽しみとして買い物 の支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	買い物や散歩など行くこともし ばしばあります。しかし、介護 量の増加により、外出支援を行 なう⇒ホーム内が手薄になる ⇒事故の可能性が高まる、とい った事も懸念される為、そうい ったことがきちんと予防される 仕組みを作る事が必要であり ます。	利用者の高齢化により、体力的 問題もあり、過去実施していた ミニツアー的外出は難しくなっ てはいるが、駅前や近所のスー パー等、利用者の希望・体力に 応じた買い物がてらの日常的な 外出支援はされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	個人で管理している方が4名お られます。散髪等に行き自分で 払ったり、近くのスーパーにお 菓子を買に行ったりして財布か ら払われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話がかかってくることもあり、また入居者が不安になった時に家族に電話を掛けて安心していただくといった取り組みも行なっています。また希望時には使用していただいています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適な環境の提供（室温、湿度）をしているが為に、逆に夏冬問わず、季節感が分かりにくいのではと思われれます。季節の飾りつけをしたり、生花を生けたりして匂いを感じて頂く支援も行っている好評いただいています。	フローリングがされた廊下・リビングの床は清掃が行き届き、清潔に管理されている。リビングの壁面には利用者の作成した作品等が程良く飾られており温かみを演出している。又、各居室の入口にはなすびやかぼちゃ等の見やすい野菜名の表札が掛けられており、快適に過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳の場所、リビングの椅子、と形態が違う場所があります。入居者は畳部屋を昼寝の場所として使用している方もいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には使用していたなじみのものを持ってきていただくようにしたり、入居者本人と家族またはスタッフが相談しながら模様替えをしたりする事もあります。	エアコン・電動ベットは備え付けられている。テーブルやテレビ等の備品は使い慣れたものを自由に持ち込んでもらっている。各居室は孫の写真や自作の作品等が利用者の好みにより飾られており、居心地良く過ごせるスペースが確保されている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりなどは装備しています。水道、トイレなども馴染んで使用しておられます。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム博寿会ほほえみ

作成日 平成 23年 10月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念をわかりやすくする	介護の理念を作る	スタッフの聞き取り、アンケート実施後、ミーティングにて決定していく	新事業所立ち上げ時期に伴い、H23年11月ごろからH24年1月ごろの期間内に作成したいと思います。
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。